



こまつ市民大学  
KOMATSU COLLEGE FOR CITIZENS

学びを  
応援

「こまつ市民大学」開校！  
活力ある地域づくりを担う人材育成



▲曳山行列の曳き手を体験する学生たち

平成クローズアップ

ひとづくり  
Human resources  
development

地域で支え、貢献する  
公立小松大学

平成30年、小松短期大学とこまつ看護学校を再編・統合し、新たに「生産システム科学部」「保健医療学部」「国際文化交流学部」からなる公立小松大学が新設されました。

基本理念には「地域と世界を見据えたグローバル人材の育成」や「地域への貢献と共創」などが含まれ、地域との関わりを重要視していることが分かります。元気な若者たちの姿をまちなかで見かけることも増え、地域行事の参加や消防団の加入など、様々な場面において、にぎわいと交流が生まれています。

また、学生を温かく受け入れてくれる飲食店(学割)も増えたことで、まちなかへの回遊性が高まりました。さらには、中央キャンパスから近い龍助町に、学生と地域交流の場「町家ハウスRyusuke」が整備されたことで「学びのフィールド」が地域全体に広がっています。



世界の舞台で活躍  
スポーツのまち

小松市では、スポーツ推進の大きな柱として「トップアスリートの育成・強化」を掲げています。ジュニアの頃から栄養学やメンタルトレーニングを含む総合的な医学サポートを行い、競技力の向上に努めています。こうした取り組みが実を結び、近年では国内だけでなく海外でも活躍する選手が輩出されています。

小松出身(ゆかり)の  
平成オリンピック出場選手

1992年バルセロナ	坂田昌弘(ボート)
1996年アトランタ	赤城千恵子(カヌー)
2000年シドニー	村井啓介(ボート)
2008年北京	豊田陽平(サッカー) 中川真依(水泳・飛込)
2012年ロンドン	松下桃太郎(カヌー) 岸彩乃(トランポリン) 中川真依(水泳・飛込)

※当時の氏名(敬称略)。

地域で活躍する  
「ひとづくり」を応援

これからの時代には、地域の課題解決や地域で活躍する担い手が求められています。こうした要請に応えるために、私たちのチャレンジと学び直しを応援してくれる学びの場が「こまつ市民大学」です。

世代に関わらず、はつらつとした生涯学習環境の充実を目指し、平成30年から始まりました。公立小松大学、小松商工会議所、小松市などで産学官民による運営委員会が運営を担当し、まち全体を学びのキャンパスに位置づけ、様々な施設や現場で講座を企画しています。

地域づくりのノウハウ、新時代のライフスタイル提案、IoTなどの先端知識など、講座テーマは多岐にわたります。市民の皆さんをはじめ、市外の人も受講できます。詳しくは「こまつ市民大学ホームページ」をご覧ください。

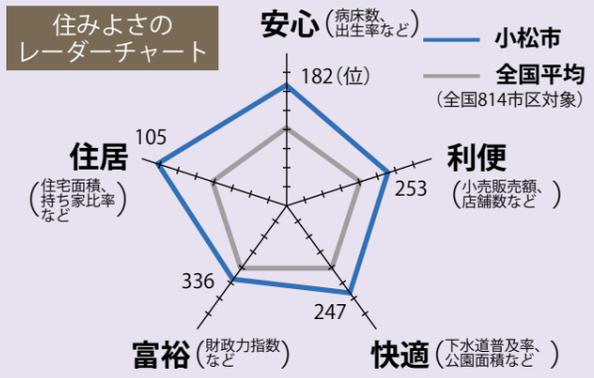
「ひとづくり」は  
共創の地域づくりへ

次代の地域づくりを推進するため、小松市は、平成30年に「はつらつとした地域とひとづくりの推進に関する条例」を施行しました。

この条例は、住みよい地域づくりや課題解決に自ら率先して取り組む「地域協議会」と、その一員として行動する「皆さん」に対し、活動と学びの観点から積極的な支援を行うものとして制定されました。全国的に見ると、「独居の人や高齢者の見守り」「子どもの遊び場づくり」「地域活性化のイベント企画」などの取り組みが、住民の自発的な活動によって行われている事例があります。

小松においても、地域の様々な団体で共創のスクラムを組み、地域協議会の活動を進めていきたいと思います。

平成を知る直近データ  
「住みよさランキング」



平成24年 総合127位 (810市区中)  
平成30年 総合47位 (814市区中)  
80ランクアップ

全国的に見ても、小松市は全ての指標が総合的にバランスのよい、優れたまちとして評価されています。近年では、50位以内を5年連続でキープしています。

科学とひとづくり  
サイエンスヒルズこまつ

平成26年に全面オープンしたサイエンスヒルズこまつは、「科学とひとづくり」の一大交流拠点として、科学の魅力を紹介する科学館です。理科大好きな青少年の育成に向け、松本零士氏を名誉館長に、「ものづくり」にゆかりのある企業や関係団体にご支援をいただき運営しています。

科学の原理や応用を分かりやすく紹介する「ワンダーランド」や様々な科学実験、日本最大級の天井ドームに映し出される「3Dスタジオ」は子供から大人まで楽しめます。名称どおり「丘」のような特徴的な外観は、「科学を遊ぶ丘」と呼ぶにふさわしく、平成27年に日本建設業連合会主催の第56回BCS賞を受賞しています。

